

Title	ビデオデフェコグラフィーの経験
Author(s)	朝比奈, 完
Journal	東京女子医科大学雑誌, 61(6):529-529, 1991
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/7722">http://hdl.handle.net/10470/7722</a>

47.6%であった。T 別, n 別にも検討したが, 他の施設より若干良好な結果を示した。予後因子の検索では検討可能と考えられる 8 つの因子に関して Cox の比例ハザードモデルにより重回帰分析を行った。415 例全体での多変量解析では n, T に生存率との相関がみられた。n, T を固定して更に解析を加えた。n0 例では生存率で v と相関がみられた。また n1 $\beta$  以上例では T, ER に相関がみられた。T を固定すると n に相関がみられた。

#### 44. 腹部救急患者に対する血液浄化法の有効性について

藺田 裕

目的：水分電解質管理は、重症症例の管理上最も問題となるものの一つである。これらの重症症例が腎不全や、MOF を合併すると、時に致命的となる場合がある。我々は、これらの重症患者に CHF (contineous hemofiltration) および PA (plasma adsorption) を施行しその効果について、特に腹部救急疾患を中心に検討したので報告する。

症例：平成元年 4 月より平成 2 月 12 月までの 21 カ月間に当センターで入院加療を受けた重症症例の内、血液浄化法施行例は 123 例であった。そのうち CHF 施行例は 102 例で、消化器疾患は 27 例。PA 施行例は 21 例で、消化器疾患は 13 例であった。これらの症例に CHF で

は腎不全、電解質異常の補正、DHP ではビリルビン値低下を目的にそれぞれ開始した。

まとめ：重症消化器疾患に合併した腎不全や MOF を治療し、水分電解質バランスの管理をする上で CHF は極めて有用であり、また、肝不全症例には PA により約 25~45%/1 回のビリルビン値の低下が見られ有効であった。

#### 45. ビデオデフェコグラフィーの経験

朝比奈 完

ビデオデフェコグラフィーは排便機能を直腸肛門部の X 線透視画像で形態的に評価する方法である。平成 2 年 3 月より第二外科肛門外来でビデオデフェコグラフィーを開始し、延べ 63 例に施行したが、従来の注腸造影では得られなかった所見が多数、明瞭に描出された。今回はこれらのうち排便障害を訴えた症例の代表的な形態的特徴につき報告する。

排便障害を理由に検査を行なったもの 55 例で、背景は女性 46 例、男性 9 例、平均年齢 48.3 歳であった。そのうち直腸瘤 (rectocele) 36 例、重積 30 例、腸体腔 (enterocele) 3 例、直腸脱 2 例、恥骨直腸筋弛緩不全 3 例、恥骨直腸筋奇異収縮 8 例、特に異常所見の見られなかったもの 9 例であった(所見の重複を含む)。これらの所見はビデオで動画として観察した方がより明瞭であった。